

血液／一般検査室



Pickup
血液／一般

血小板・網血小板

ケガをした時、傷口から血が出てきた経験が誰しもあると思います。

血小板は傷口をふさいで止血をするために必要不可欠な血球成分です。

血小板は骨髓という所で産生され、骨髓から放出されたばかりの

未熟・幼若なものを網血小板と呼びます。

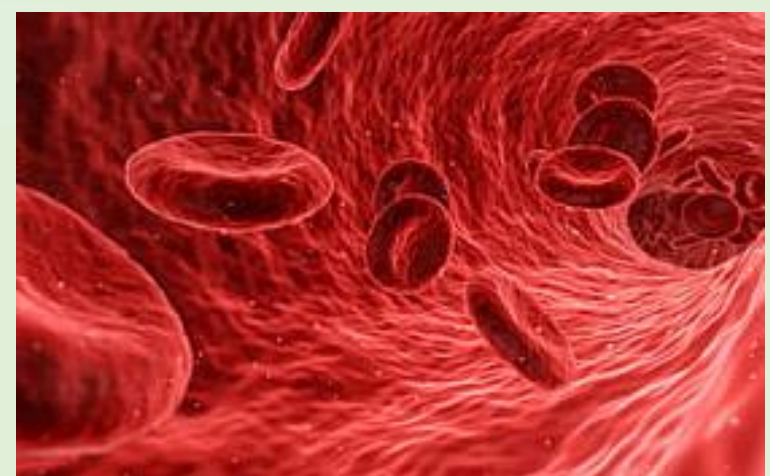
血小板のなかの網血小板の割合を幼若血小板比率（IPF）と呼んでいます。（以下IPF）



基準範囲

血小板の基準範囲は15.8～34.8（ $\times 10^4/\mu\text{L}$ ）

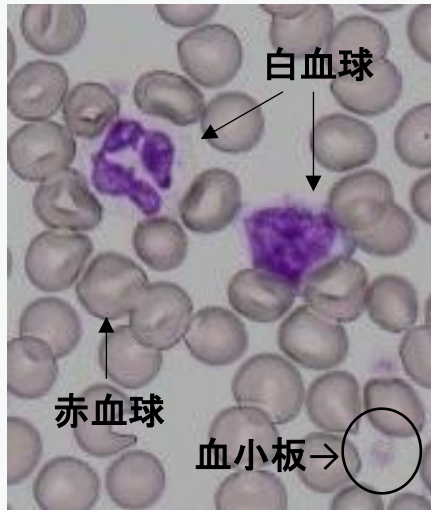
幼若血小板比率（IPF）の基準範囲は0.7～6.3（%）



Close-up 血小板・IPF

血小板やIPFを測定することでどんなことが分かるのか、異常が見られるとどんな病気が考えられるのか、血小板が関わる病気でメジャーな特発性血小板減少性紫斑病に焦点を当てて簡単にご説明します。

血小板の特徴

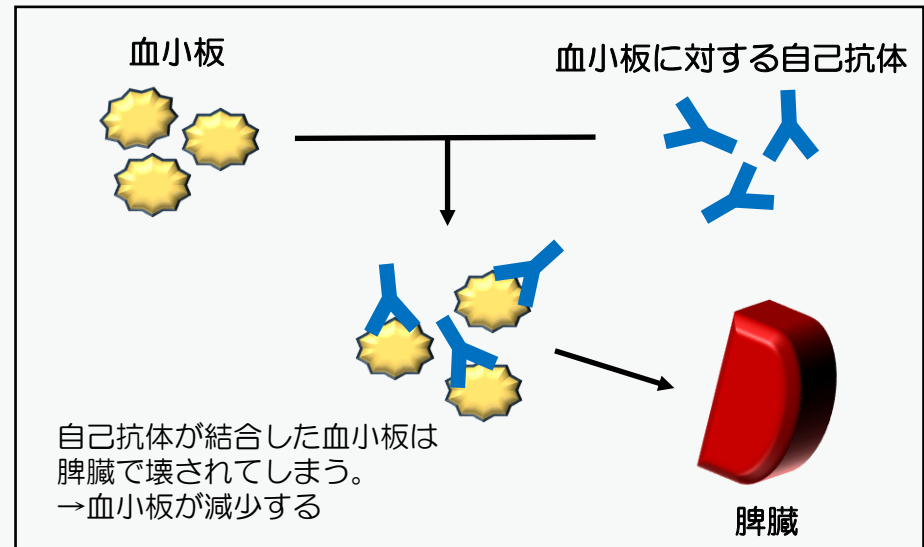


血小板は円盤または碁石状の形をしている小さな細胞です。

止血における重要な役割を果たしています。血小板が少ないと血が止まりにくくなってしまいます。

血小板の寿命は約7~10日間と短いです。

特発性血小板減少性紫斑病



この病気は血小板に対する自己抗体が血小板に結合し破壊することで、血小板減少を起こします。

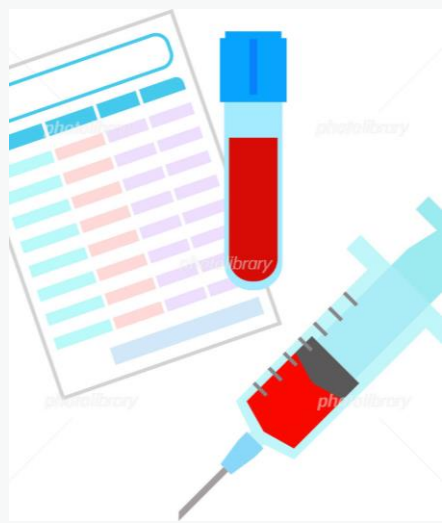
抗体は本来細菌などの外敵に対して作られるものですが、何らかの原因で自分の身体の成分に対して作られた抗体を自己抗体といいます。

手や足に紫斑が見られたり、粘膜出血（鼻血、消化管出血、血尿）の症状が見られることもあります。また出血したら血が止まりにくくなるため、貧血にもなります。

IPFの特徴

血小板の産生が多いと増加し、低下すると減少することから、血小板産生の指標として利用されています。

網血小板は血小板に比べて細胞が大きく、RNAなど様々な成分を多く含んでいます。この違いを用いて機器で血小板とIPFを測定しています。



-検査所見-

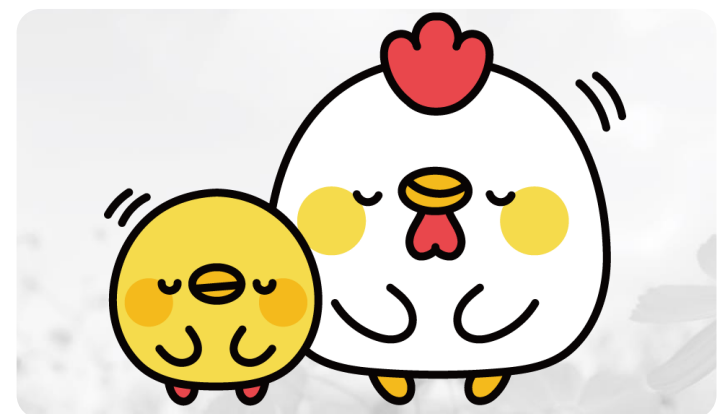
- 血小板減少（赤血球、白血球には異常を認めない）
- IPF増加

Key Point

健常な方では血小板とIPFの関係性は負の相関関係になります。

血小板が減ったら、血小板をたくさん作ろうと幼若な血小板すなわち網血小板が増えます。逆に血小板が増えたら、血小板産生を抑えようと網血小板が減ります。

IPFは現時点では測定できる施設が限られていますが、今後病気との関係性が明らかになることで血小板に並ぶ必須項目になる可能性があります。



<お問い合わせ先>

検査に関するお問い合わせ、ご要望は下記連絡先にご連絡ください。

〒471-0821 愛知県豊田市平和町1-62

TEL : 0565-25-3165 (代)

FAX : 0565-25-3166 (代)

次回のテーマ

微生物部門より

「人食いバクテリア（劇症型溶血性レンサ球菌感染症）」です。

過去のらぼニュースは下記からご覧いただけます

会社ホームページ <http://www.goodld.com>

